

## 任務を全う: 軍用犬テック号が遺したもの *Mission Complete: military working dog Tek's legacy*

August 9, 2024

By Airman 1st Class Alexzandra Gracey  
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地のディフェンダーのあいだで、テック号の名前は長く記憶に残るだろう。テック号は第374憲兵中隊の一員であり、非常に優れた米空軍の軍用犬だった。

軍用犬はアメリカ軍の活動において重要な役割を果たしており、その歴史は長い。100年以上にわたり爆発物や麻薬の探知から容疑者の制圧まで多岐にわたる任務を遂行してきた。鋭い感覚と揺るぎない忠誠心を持つ軍用犬は、日々ハンドラーとともに軍の運用の安全と成功を支えている。

すべての軍用犬は、空兵と同様にテキサス州のサンアントニオ統合基地でキャリアをスタートする。軍用犬は第341訓練中隊に所属して120日間の訓練を受ける。米国防総省によれば、認定ブリーダーから連れて来られた犬も、国の子犬プログラムで生まれ育った犬も、すべての犬が軍用犬訓練プログラムを受けることになっている。

軍用犬テック号は、2019年1月に米空軍の爆発物探知犬として正式に認定を受けた。意欲に満ちた2歳のベルジアン・マリノアは、同年8月に横田基地第374憲兵中隊で正式に任務を開始し、太平洋空軍最大の空港の警備任務に就いた。

ウィリアム・ヘップ・V上級空兵とテック号が初めて対面したのは、それから約3年後の2022年のことだった。ハンドラースクールを卒業し、横田に配属されたばかりのヘップ上級空兵は、経験豊富だがサイコ犬として悪名高いテック号とパートナーを組むという大きな課題に直面した。ベテランのハンドラーやリーダーシップたちから警告されたり心配されながらも、ヘップ上級空兵は楽観的な姿勢を崩さなかった。

「テック号が『サイコ犬』だと聞いて少しの不安はあったが、動物が好きなので他人がいうことがすべて本当だとは思わなかった」とヘップ上級空兵は明かした。

アメリカン・ケネル・クラブ(愛犬家団体)によると、ベルジアン・マリノアは、人間のパートナーと堅い絆を築く犬種であるという。さらにこの忠誠心のある犬が十分に働かされなかったり、放任されると、問題が起こるとも助言しており、テック号もその例外ではなかった。半年間ハンドラーがいなかったため、テック号の不安と落ち着きのなさは悪化しており、最初の課題は新しいパートナーと仕事ができる体制を整えることだった。何時間も訓練としつけを積み重ねることで、テック号の隠れていた個性や能力が表面化した。

「前任のハンドラーはテック号との素晴らしい実績を築いたので、私にはそれを取り戻す役目があった」と語り、「実際にはとてもリラックスした犬で、引退しているかのようにいつも振る舞い、注目されるのが好きだった」と述べた。

互いの努力と忍耐で信頼関係の基盤を築いた結果、その後2年間にわたる卓越したパートナーシップが実現した。ヘップ上級空兵とテック号は二人三脚で献身的に任務を遂行し、国防総省の43億ドル相当の資産を守り、エアフォース・ワンや国家情報長官等を含む20回の来訪者の警備を担った。さらに200回ものさまざまなテロ対策、1,000回以上の歩行パトロール、400回におよぶ入門管理パトロールを行い、その貢献を称えて横田基地のリーダーシップから感謝状を授与され、また表彰のコインも3度贈られた。

ヘップ上級空兵は「いつも背中を支えてくれている感じがした。日々信頼できるパートナーだった」と振り返り、「軍用犬は忠誠心が非常に強く、たとえ調子が悪くても大丈夫なふりをしようとする」と明かした。テック号とヘップ上級空兵の不屈のペアは、敵も、危険な任務も、多忙な勤務スケジュールにも屈することはなかった。

ただ唯一、このパートナーの活動を妨げたのは癌だった。

「体全身に癌が広がり、関節もひどい状態だったものの、テック号は仕事を離れたり辞めたりしようとはしなかった」「最終的には我々が決断を下さなければならなかった」とヘップ上級空兵は吐露した。



軍用犬テック号は、2024年6月に最後の旅路についた。ヘップ上級空兵を始め、他のハンドラー、第374憲兵中隊のメンバーたちが集まり、優しく撫でたり、静かな慰めの言葉をかけてその英雄に敬意を表した。テック号の最後は愛と敬意に包まれていた。

ヘップ上級空兵は「皆、テック号のことをおちゃめな犬だったと思っていると思う。関わった人たちに、テック号の思い出がずっと残っていて欲しい」と話した。

テック号とヘップ上級空兵のパートナーシップと信頼関係は、厳しい訓練と数えきれないほどのパトロールの任務で培われた。その絆は、勤務時間外に一緒に綱引きして遊んだり、ソファで一緒にくつろいだり、ただ一緒にいることを楽しむ静かな時間を共有することでさらに強固なものになった。次第にテック号は単なる軍用犬に留まらず、揺るぎないパートナー、そして安らぎの源となり、犬が人間の一番の友であるという真実をさらに深めてくれた。